

武田 靖弘 (タケダ ヤスヒロ)

本州化学工業株式会社社長



## 2008年度中期経営計画の達成に向けた 事業戦略の展開

### ◆当社の特徴

当社は、1914年に和歌山市において創業して以来、フェノール誘導品に特化し国内外において事業を展開している。当社は、主原料のフェノールおよびメタパラクレゾールを三井化学から購入し、これを使用して各種のフェノール誘導品の製造を行い、顧客である樹脂、フォトレジスト、医薬品の各メーカーに中間原料として販売している。当社は、1988年にビスフェノールA事業を旧三井石油化学工業に譲渡したのを機に、ファインケミカル製品を主力とした事業構造への転換を図っており、またバイエル社向け特殊ビスフェノールの生産販売拠点としてハイビス社をドイツに設立するなど海外への事業展開も積極的に行っている。

当社は、将来のマーケットにおいて自社の強みを発揮できる製品を特に「コア製品」<sup>※</sup>と位置付け、これを見出し、育成、強化・拡大を図っていくことを事業運営上の基本方針としている。

※「コア製品」とは、①成長する市場がある、②独自技術が活用できる、③世界において高いマーケットシェアを有していることの3条件を満たす事業と位置付けており、現在は“ビフェノール”、“フォトレジスト材料”、“クレゾール誘導品（トリメチルフェノール等）”および“特殊ビスフェノール”の4事業がある。

### ◆2009年3月期中間期実績

#### ■事業環境

原材料価格が高騰したため、引き続き収益圧迫要因を抱えた厳しい事業環境の下に置かれた。

#### ■部門別コア製品の販売状況

##### 【高機能樹脂原料部門】

##### ●ビフェノール（液晶ポリマー（LCP）原料）

ビフェノールは、耐熱性、精密成形性に優れた“液晶ポリマー（LCP）”（パソコンや携帯電話等の電子部品に使用）の原料として、今後とも需要が拡大していくものと見込まれている。

当中間期においては、国内向けについて堅調な需要を背景に好調な販売を維持するとともに、競合他社との競争激化により不調を続けていた輸出についても一部需要の回復をみる事ができた。

##### ●特殊ビスフェノール（特殊ポリカーボネート樹脂・特殊エポキシ樹脂原料）

特殊ビスフェノールは、耐熱性、光学特性に優れた特殊ポリカーボネート樹脂や特殊エポキシ樹脂の原料として使用されており、特殊ポリカーボネート樹脂は自動車用部品や光学用電子部品向けに、特殊エポキシ樹脂はエポキシ封止剤・積層板向けに需要の増大が見込まれている。

当中間期においては、特殊ポリカーボネート樹脂用については、これまでユーザーサイドでの製品在庫調整により販売不振であった自動車部品用向けは需要の回復をみる事ができたものの、光学用電子部品向けは需要減退により低調な販売であった。特殊エポキシ樹脂用については、2008年度中期経営計画（2008～2011年度）の事業戦略に基づき次期コア製品候補として育成中のビスフェノールF<sup>※</sup>の需要が拡大した。

※ビスフェノールFを原料とした特殊エポキシ樹脂は、加工性および金属接着性に優れており、ノンハロゲンタイプの難燃性積層板や粉体塗料用途向けとして今後の需要拡大が見込まれている。当社は、これに対応した安定的な生産体制を確立するため、2008年2月に和歌山工場の製造設備の年間生産能力を2千トンから4千トンに倍増した。

##### 【高機能化学品部門】

##### ●フォトレジスト材料

フォトレジスト材料は、半導体、液晶ディスプレイ（LCD）の製造過程で使用されている。

当中間期においては、半導体用の販売が需要回復により堅調に推移したものの、LCD用の販売が需要の伸び悩みにより減少した。

##### ●トリメチルフェノール（ビタミンE原料）

メタパラクレゾールの誘導品であるビタミンE原料のトリメチルフェノールは、家畜用飼料の添加剤として使用されている。

当中間期においては、欧州向けの輸出が好調に推移するとともに販売価格の改定を行うことができ、また中国向けの輸出が需要回復を背景に堅調に推移した。

#### ■連結業績概要

##### ●全般

売上高は106億55百万円（前年同期比13.2%増）、経常利益11億22百万円（同31.9%増）、中間純利益5億16百万円（同13.5%増）であった。

##### ●部門別売上高

高機能樹脂原料部門は34.7億円（前年同期比5.7%増）、高機能化学品部門は60.7億円（同20.7%増）、その他化成品部門は11.0億円（同1.0%増）であった。

なお、総売上高の前年同期比変動（12.4億円増）要因は、価格差8.5億円増と数量差3.9億円増によるものである。

##### ●利益

経常利益は、単体ベースでは10.9億円（前年同期比39.2%増）、ハイビス社からの配当を控除した連結ベースでは11.2億円（同31.9%増）、中間純利益は、単体ベースでは6.6億円（同9.1%増）、連結ベースでは5.1億円（同13.5%増）

##### ●貸借対照表

資産は、固定資産122.5億円、流動資産127.4億円の合計249.9億円で、

負債・純資産は、資本108.7億円、少数株主持分13.6億円、借入金59.4億円、負債・その他68.1億円、自己資本比率は43.5%、D / Eは0.52となった。

##### ●キャッシュフロー

営業キャッシュフロー 15億58百万円、投資キャッシュフローマイナス6億45百万円、財務キャッシュフローマイナス4億53百万円であった。

#### ◆2009年3月期通期見通し

##### ■事業環境

ナフサ価格は下落基調で推移するものの、国内外景気の減速悪化や為替レートの動向の不透明さなどにより、かつてない極めて厳しい状況になるものと予想され、当社のコア製品のいずれも国内外における需要が減退するとともに、輸出品につき円高による収益圧迫が見込まれる。

##### ■2009年3月期通期連結の業績見通し

●売上高219億30百万円（前期比12.9%増）、経常利益18億円（同5.7%増）、当期純利益9億30百万円（同21.2%増）の見込みである。

##### ●部門別売上高

高機能樹脂原料部門は79.4億円（前年同期比20.7%増）、高機能化学品部門は118.1億円（同9.0%増）、その他化成品部門は21.7億円（同8.1%増）を見込んでいる。

なお、総売上高の前年同期比変動（25.0億円増）要因は、価格差9.4億円増と数量差15.6億円増によるものである。

##### ●利益

経常利益は、単体ベースでは14.0億円（前年同期比6.3%増）、ハイビス社からの配当を控除した連結ベースでは18.0億円（同5.7%増）、当期純利益は、単体ベースでは9.4億円（同12.9%増）、連結ベースでは9.3億円（同21.2%増）の見込みである。

##### ●投資

投資は、連結ベースで17.9億円、単体ベースで17.5億円、償却費は、連結ベースで17.3億円、単体ベースで12.8億円の見込みである。

#### ◆経営目標

2008年度中期経営計画における計数目標・事業戦略は、次のとおりである。

---

## ■計数目標

最終年度の2011年度の計数目標として、売上高250億円、経常利益25億円、ROA・ROSいずれも10%とする。

## ■事業戦略

### ●既存コア事業の強化・拡大

#### ・クレゾール誘導品

川下展開強化および成長需要の取り込みによるリーディングカンパニーとしての地位堅持

#### ・ビスフェノール

プラント合理化による競争力強化および成長需要の取り込み

#### ・特殊ビスフェノール

品揃え体制の構築による新規顧客開拓および用途開発による業容の拡大

#### ・フォトレジスト材料

i線事業の堅持および次世代（EUV）向け技術の開発

### ●次期コア製品候補の育成・強化

#### ・ビスフェノールF

2008年2月 製造設備増強（年間生産能力2千トンから4千トン／年に倍増）

#### ・感光性ポリイミド材料

拡大する需要の取り込み

#### ・精製BHT

2008年6月 製造設備新設

2009年1月 事業開始（株）エーピーアイ コーポレーションより事業譲受け）

### ●新規事業の創出

高機能ポリマー原料（高機能イミド原料、高機能エポキシ樹脂原料など）の開発

（平成20年11月28日・東京）